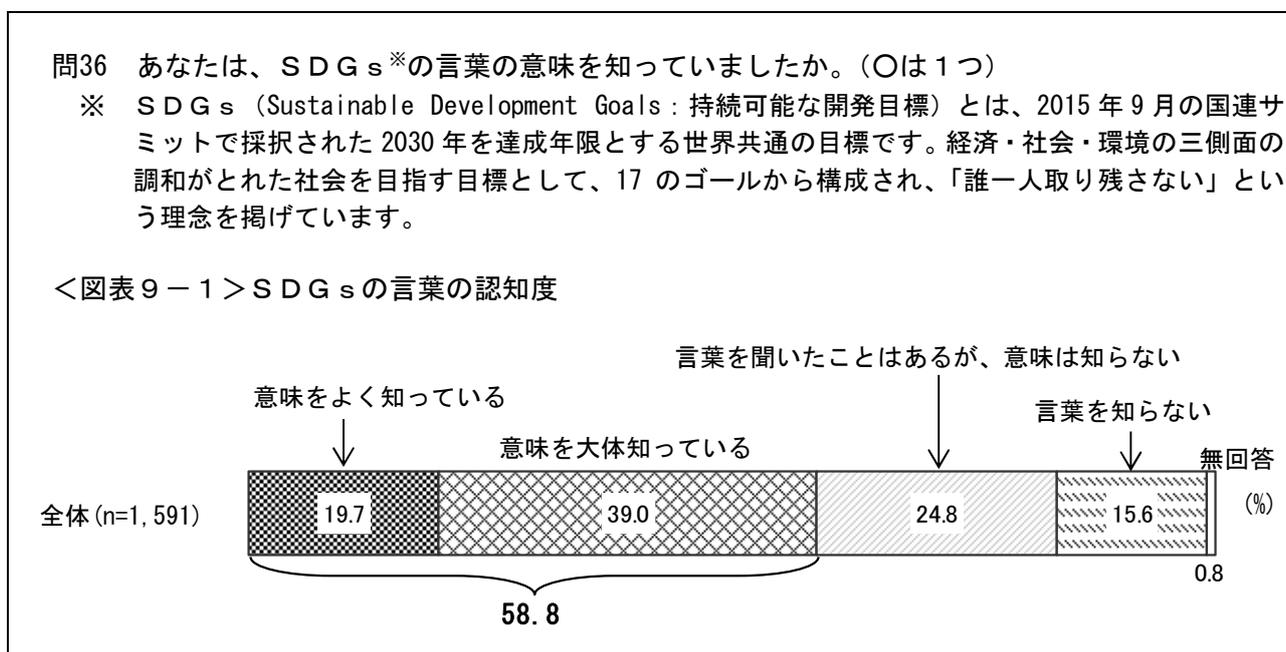


9 SDGs等について

(1) SDGsの言葉の認知度

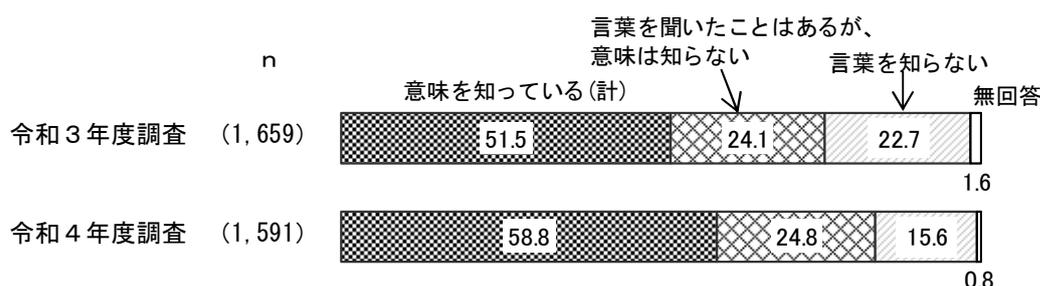
◇『意味を知っている（計）』が約6割



SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（19.7%）と「意味を大体知っている」（39.0%）を合わせた『意味を知っている（計）』（58.8%）が約6割となっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（24.8%）が2割台半ば、「言葉を知らない」（15.6%）が1割台半ばとなっている。（図表9-1）

【参考】令和3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『言葉を知らない』は“安房地域”（36.7%）が3割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

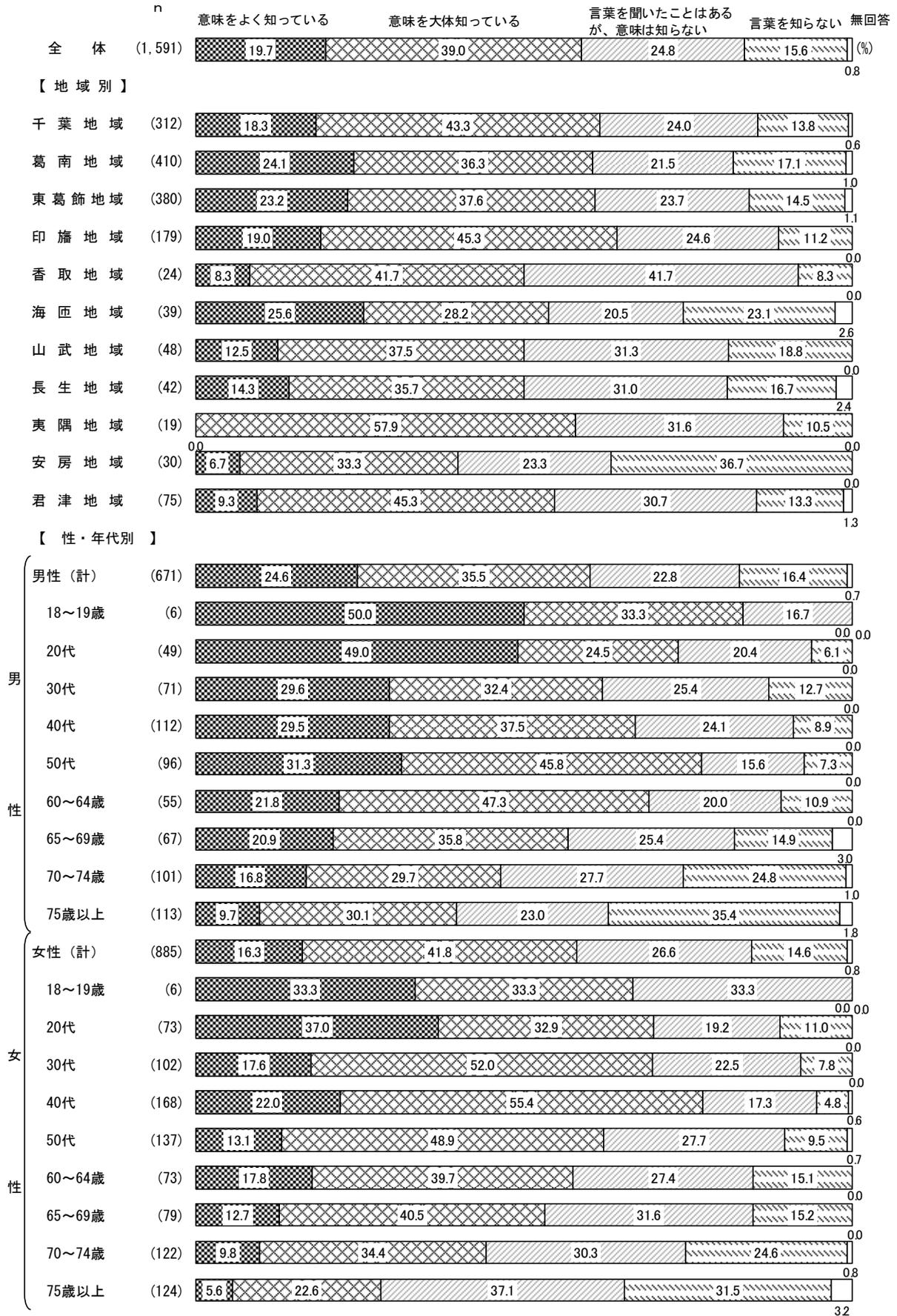
【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男性の50代（77.1%）と女性の40代（77.4%）が約8割、男性の20代（73.5%）が7割台半ば、女性の20代（69.9%）と女性の30代（69.6%）が約7割で高くなっている。

一方、「言葉を知らない」は男性の75歳以上（35.4%）が3割台半ば、女性の75歳以上（31.5%）

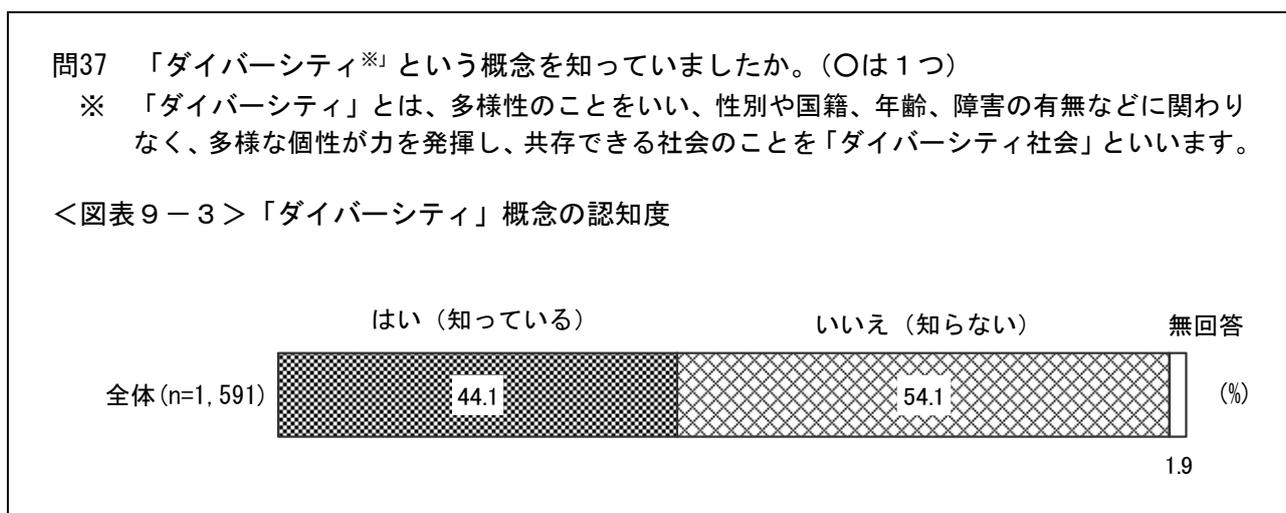
が3割を超え、男性の70～74歳（24.8%）と女性の70～74歳（24.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

＜図表9-2＞SDGsの言葉の認知度／地域別、性・年代別



（2）「ダイバーシティ」概念の認知度

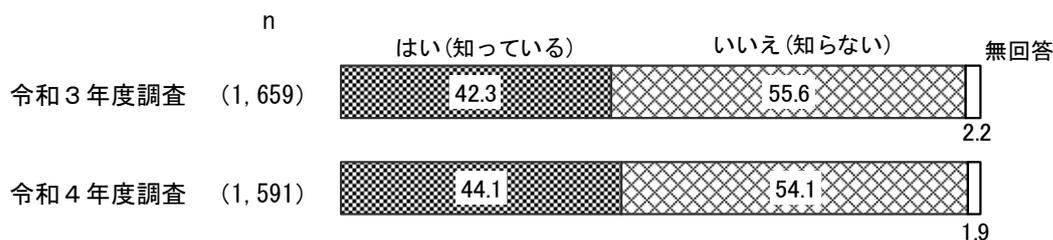
◇「はい（知っている）」が4割台半ば



「ダイバーシティ」という概念を知っていたか聞いたところ、「はい（知っている）」（44.1%）が4割台半ばとなっている。

一方、「いいえ（知らない）」（54.1%）が5割台半ばとなっている。（図表9-3）

【参考】令和3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

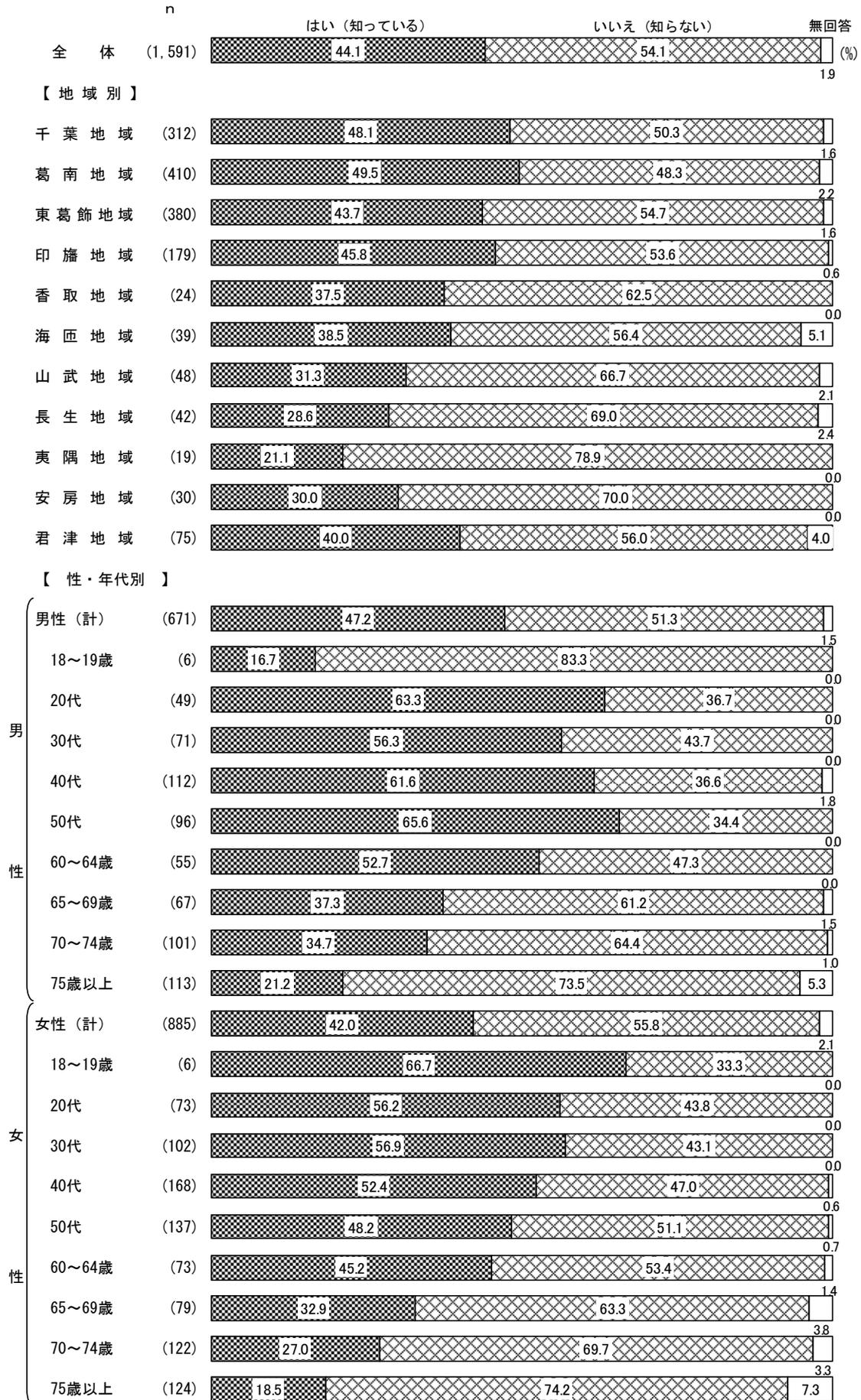
地域別にみると、『はい（知っている）』は“葛南地域”（49.5%）が約5割で高くなっている。一方、『いいえ（知らない）』は“長生地域”（69.0%）が約7割で高くなっている。（図表9-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の50代（65.6%）が6割台半ば、男性の20代（63.3%）と男性の40代（61.6%）が6割を超え、男性の30代（56.3%）、女性の20代（56.2%）、女性の30代（56.9%）が5割台半ば、女性の40代（52.4%）が5割を超えて高くなっている。

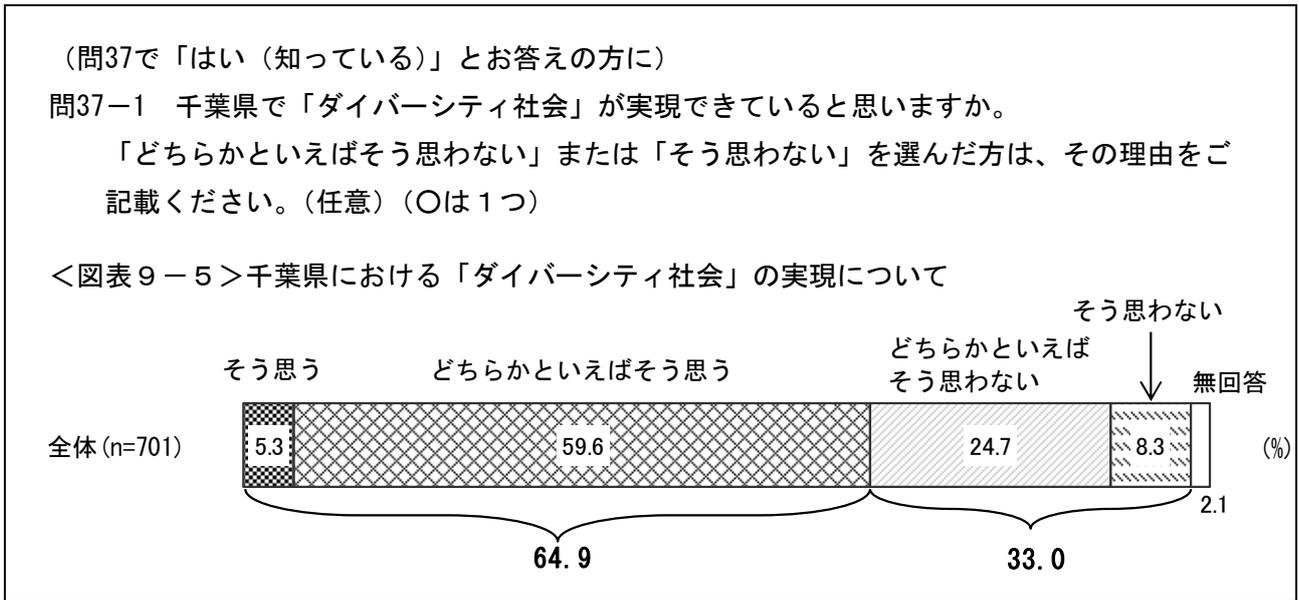
一方、『いいえ（知らない）』は男性の75歳以上（73.5%）と女性の75歳以上（74.2%）が7割台半ば、女性の70～74歳（69.7%）が約7割、男性の70～74歳（64.4%）が6割台半ばで高くなっている。（図表9-4）

<図表9-4> 「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（2-1）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

◇『そう思う（計）』が6割台半ば



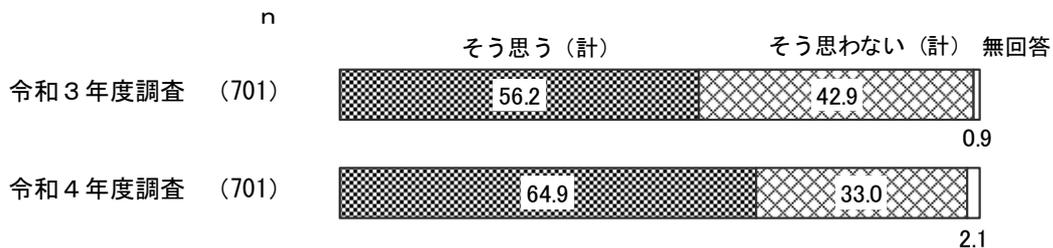
ダイバーシティの概念を知っている701人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」(5.3%)と「どちらかといえばそう思う」(59.6%)を合わせた『そう思う（計）』(64.9%)が6割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.7%)と「そう思わない」(8.3%)を合わせた『そう思わない（計）』(33.0%)が3割を超えている。（図表9-5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・ダイバーシティ社会の実感がない／具体例を知らないため（60件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（23件）
- ・千葉県の取組みが遅れている／浸透していないため（21件）
- ・性別による格差があるため（12件）
- ・県だけではなく世の中がそうになっていない（10件）
- ・差別や偏見があるため／なくならないため（9件）
- ・障がいによる差別があるため（8件）
- ・地域によって差がある（8件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（7件）
- ・国籍、人種、言語による差別があるため（6件）
- ・わからない（7件）
- ・その他（8件）

〔参考〕令和3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

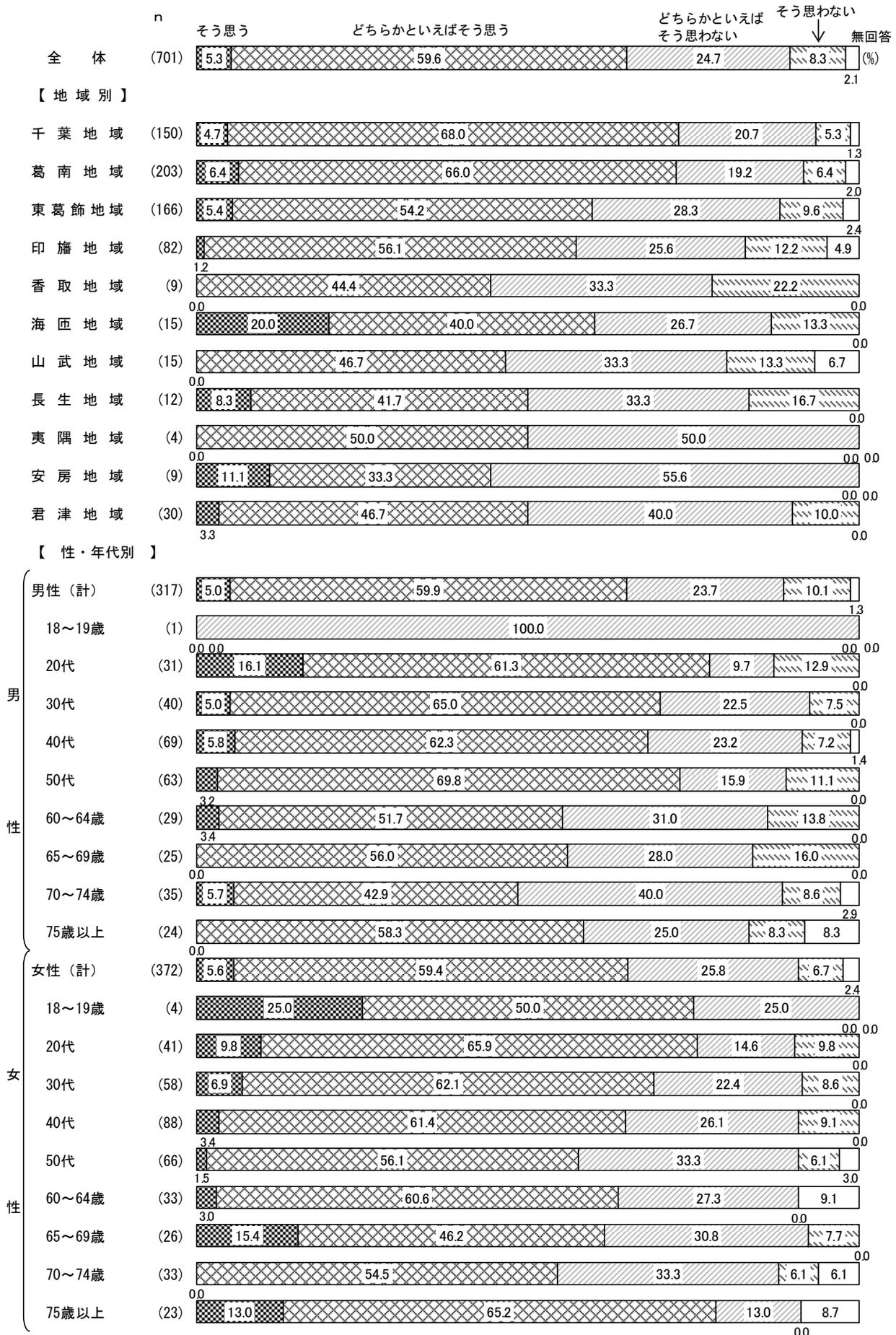
地域別にみると、『そう思う（計）』は“千葉地域”（72.7%）と“葛南地域”（72.4%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“君津地域”（50.0%）が5割で高くなっている。（図表9-6）

【性・年代別】

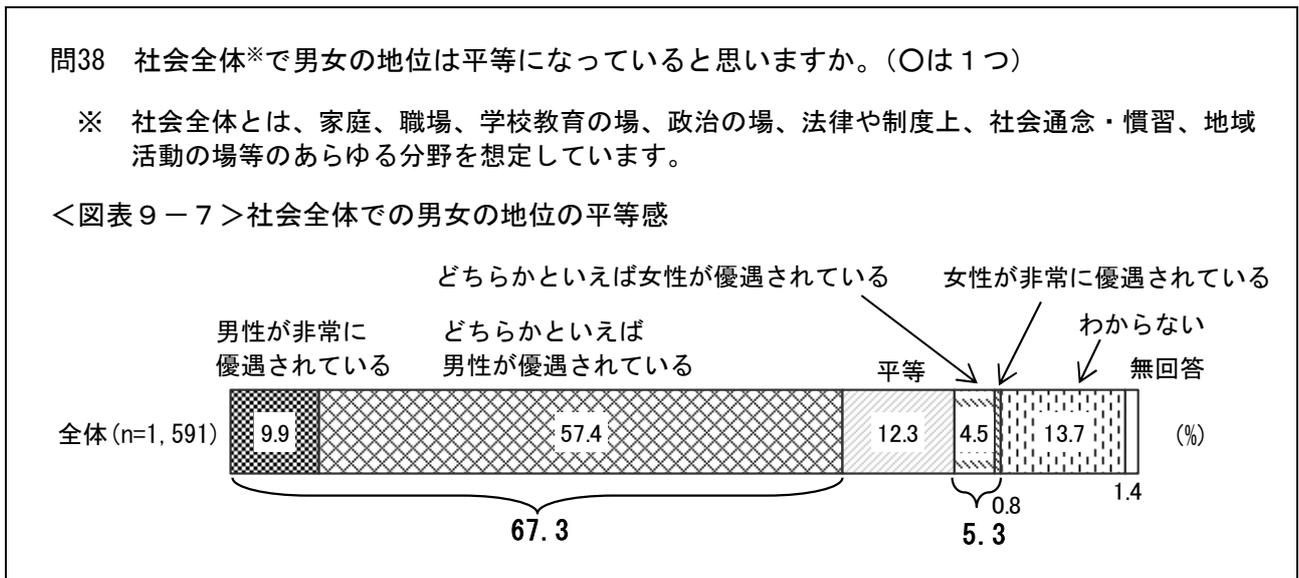
性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は男性の70～74歳（48.6%）が約5割で高くなっている。（図表9-6）

<図表9-6>千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について／地域別、性・年代別



（3）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が約7割

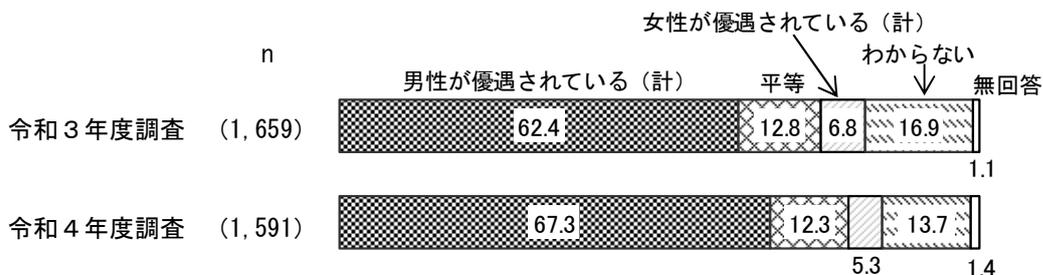


社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(9.9%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(57.4%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(67.3%)が約7割となっている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(4.5%)と「女性が非常に優遇されている」(0.8%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(5.3%)は1割未満となっている。

「平等」(12.3%)は1割を超えている。(図表9-7)

【参考】令和3年度と同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『女性が優遇されている（計）』は“長生地域”（19.0%）が約2割で高くなっている。(図表9-8)

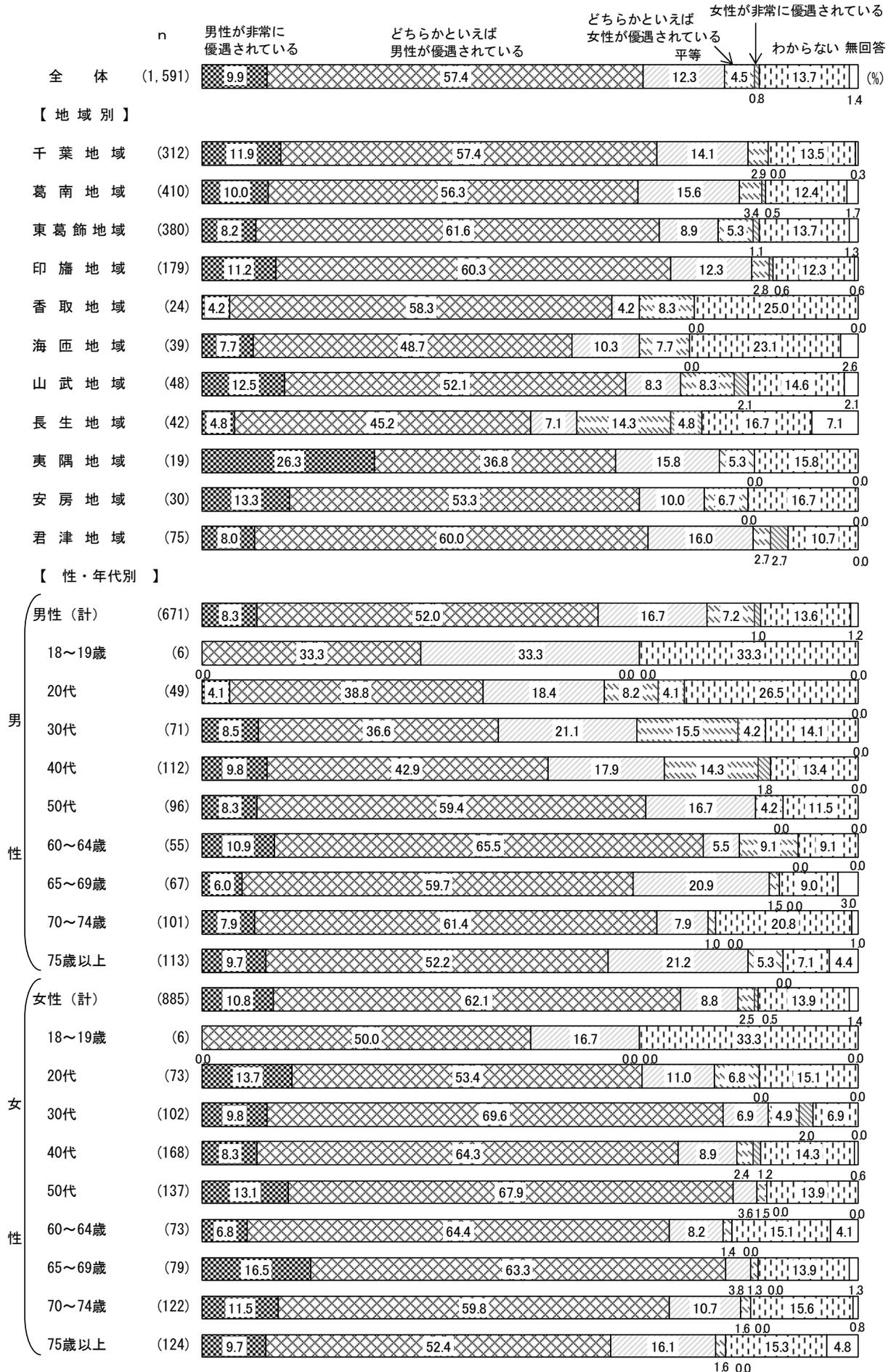
【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性の50代（81.0%）が8割を超え、女性の30代（79.4%）と女性の65～69歳（79.7%）が約8割で高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の30代（19.7%）が約2割、男性の40代（16.1%）が1割台半ば、男性の20代（12.2%）が1割を超えて高くなっている。

「平等」は男性の30代（21.1%）と男性の75歳以上（21.2%）が2割を超え、男性の65～69歳（20.9%）が2割で高くなっている。(図表9-8)

<図表9-8>社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

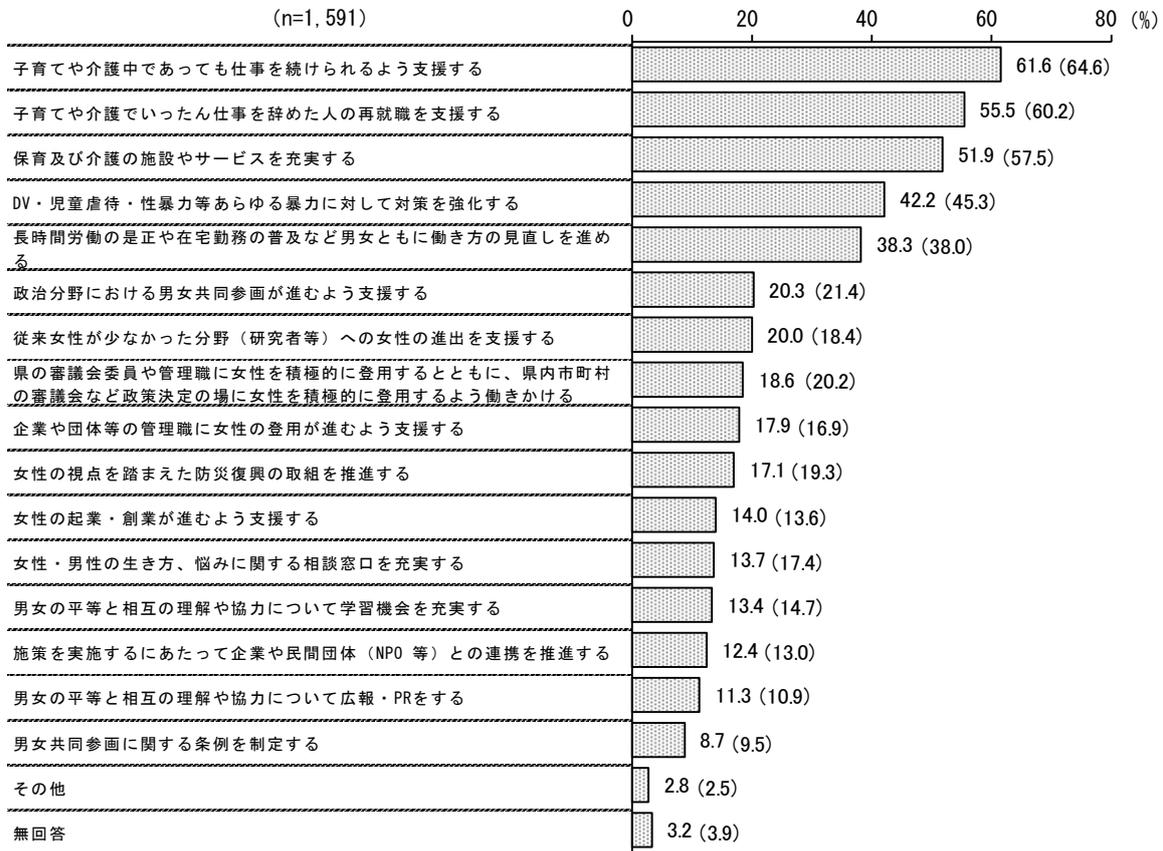


（４）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が6割を超える

問39 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（〇はいくつでも）

＜図表9-9＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



注) () の数字は令和3年度の同様の項目による調査結果 n=1,659

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(61.6%)が6割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(55.5%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(51.9%)が続く。(図表9-9)

【地域別】

地域別にみると、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は“東葛飾地域”(43.7%)が4割台半ばで高くなっている。(図表9-10)

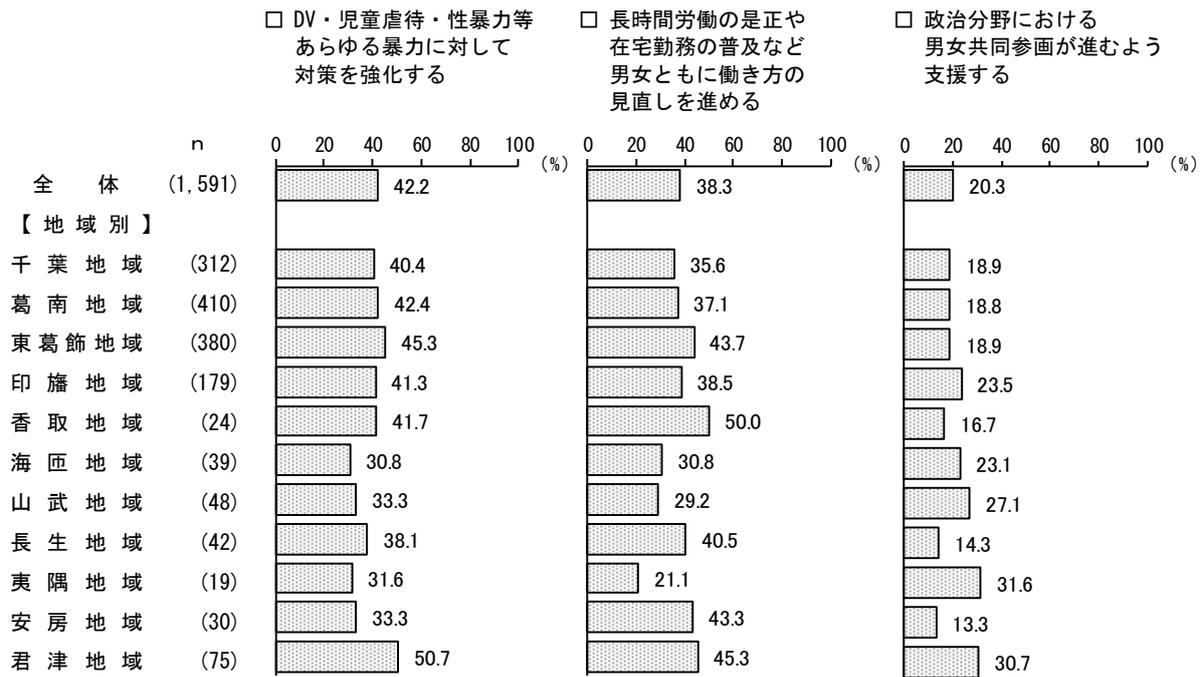
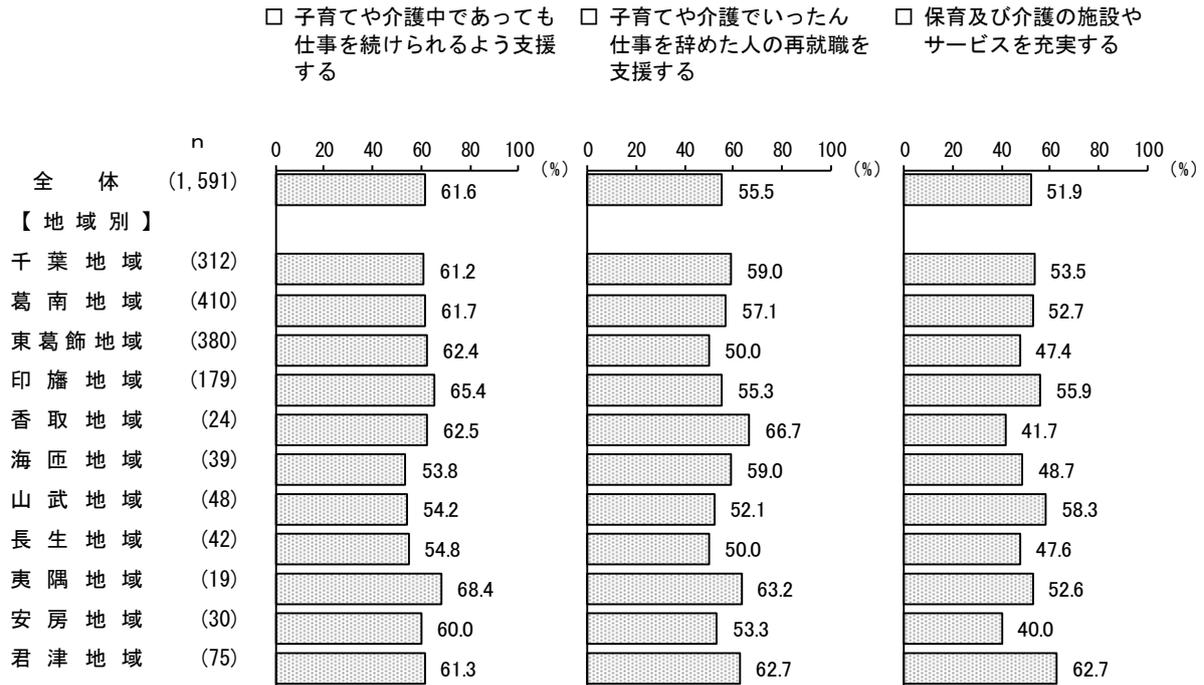
【性・年代別】

性・年代別にみると、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の60～64歳(64.4%)が6割台半ばで高くなっている。

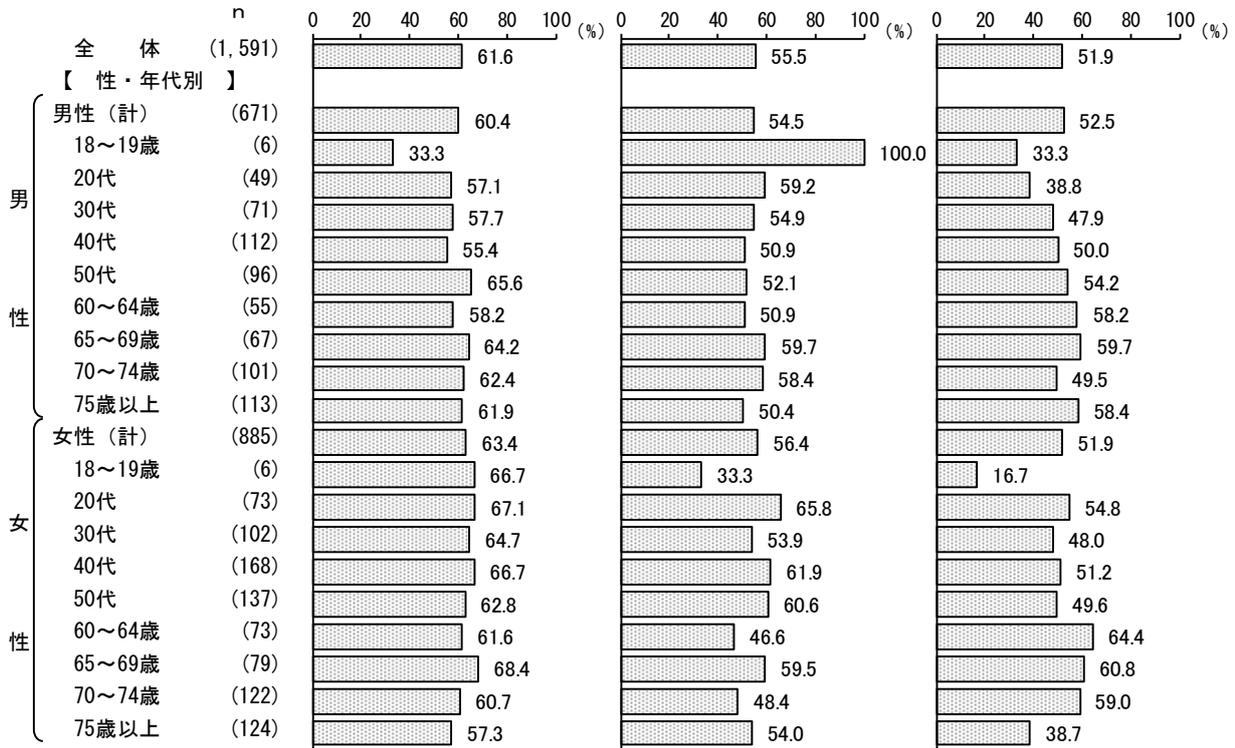
「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は男性の20代(55.1%)が5割台半ば、女性の20代(52.1%)と女性の30代(51.0%)が5割を超えて高くなっている。

「政治分野における男女共同参画が進むよう支援する」は女性の65～69歳(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。(図表9-10)

<図表9-10>男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 保育及び介護の施設やサービスを充実する



- DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
- 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 政治分野における男女共同参画が進むよう支援する

